

第9次全国肺癌登録事業

肺癌登録合同委員会は日本肺癌学会、日本呼吸器外科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会の協同で運営されており、我が国の肺癌症例の登録、解析事業をとおして、肺癌の発生や予後に関わる因子を明らかにし、肺癌の予防、診断、治療の向上に寄与することを目的として活動しております。

これまでに1989年、1994年、1999年、2004年の外科症例の後方視的調査、および2002年に内科・外科にて初回診療された症例の登録事業を行い、解析結果を報告して参りました。またこれらの事業により登録された肺癌症例のデータは、International Association for the Study of Lung Cancer/International Union Against Cancerによる病期分類の第7次改定、第8次改定の際の重要な基礎資料として用いられ世界の肺癌診療に大きく貢献しております。

現在、2012年の内科症例の調査研究が進行中であり、まもなく2010年の外科症例の後方視研究を開始する予定です。さらに事業範囲を胸腺上皮性腫瘍、胸膜中皮腫に広げる計画が進行中です。

このような活動と実績は、我が国の肺癌診療に関わる皆様の熱意の賜物であると存じております。肺癌研究のさらなる発展のために、今後の事業へのご協力をお願い申し上げます。

肺癌登録合同委員会 委員長 吉野一郎

研究の対象

2017年4月1日から2018年3月31日の間に細胞診または組織診にて悪性胸膜中皮腫と診断された20歳以上のすべての患者さんを対象とします。

研究目的・方法

本研究の目的は、本邦で診断された悪性胸膜中皮腫症例を前向きに登録してデータベースを構築し、治療成績を検証し、標準治療の確立のための基礎データを構築することです。さらに、構築されたデータベースをもとに臨床研究を行い国内外に情報発信するとともに、国際的なデータベースにも参加する予定です。

また、現在、国際中皮腫研究会はデータベース事業を開始し、国際共同研究が提案されています。本研究のもう一つの目的は、本邦での独自の研究に加えて国際共同研究にも参加し、国際的な標準治療を確立することです。

カルテに記載されている一般的な診療情報を全国規模のデータベースに登録します。本研究は、長期にわたる経過観察と転帰の情報の入力が必要であるため、参加施設の担当医が登録前に患者さんに説明書を使って研究について説明し、インフォームド・コンセントを取得するとともに、研究対象者等が拒否できる機会を保障いたします。

研究に用いる試料・情報の種類

臨床症状、血液検査結果、画像診断情報、病理診断情報、治療後の転帰・予後など、カルテに記載されている一般的な診療情報を登録します。

外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。患者さんのお名前などの第三者が患者さんを識別できる情報がデータベースに登録されることはありません。

また、当事業の症例データベースは世界肺癌学会のデータベースなどにも供与されます。

研究組織

本登録研究への参加施設および研究責任者に関する情報は、肺癌登録合同委員会ホームページへ公開しております(<https://haigan-touroku.jp>)。

お問い合わせ先

本研究全体に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

新谷 康 (大阪大学大学院医学系研究科 呼吸器外科学)

大阪府吹田市山田丘2-2(L5)

TEL: 06-6879-3152, FAX: 06-6879-3164

研究責任者:

吉野 一郎 (千葉大学大学院医学研究院 呼吸器病態外科学)

研究代表者:

長谷川 誠紀 (兵庫医科大学 呼吸器外科)